

調査データで見る「親子就活」

2013年11月発行

就活生の親に向けた書籍が出版されるなど、近年、親の就職支援が話題にのぼることが増えた。

ディスコでは、「親子就活」の実態を探るべく、企業の採用担当者と就活生の双方に調査を実施した。採用担当者に対しては、親から連絡を受けた経験やその内容、親のスタンスへの意見などを、学生に対しては、家族との関わりの実態などを尋ねた。企業からは「無関心はよくないが、過干渉はいかがなものか」といった声が多く寄せられた。とりわけ、企業との接点に親が登場するのはマイナスであるようだ。

《調査概要》

■企業調査 「採用活動に関する企業調査」

	2013年2月調査	《従業員数》		
調査時期	2013年2月20日～28日	～299人	300～999人	1000人以上
回答社数	全国の主要企業 1,045社	392社	418社	235社

■学生調査 「日経就職ナビ 学生モニター調査」

調査対象	日経就職ナビ2014 就職活動モニター
調査時期	2013年3月1日～7日
回答人数	1,365人(文系男子454人、文系女子385人、理系男子374人、理系女子152人)

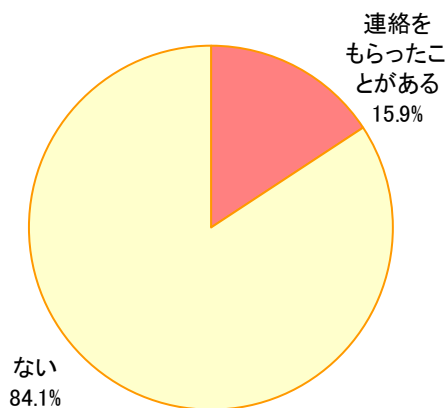
調査方法：インターネット調査法

調査機関：株式会社ディスコ キャリアリサーチ

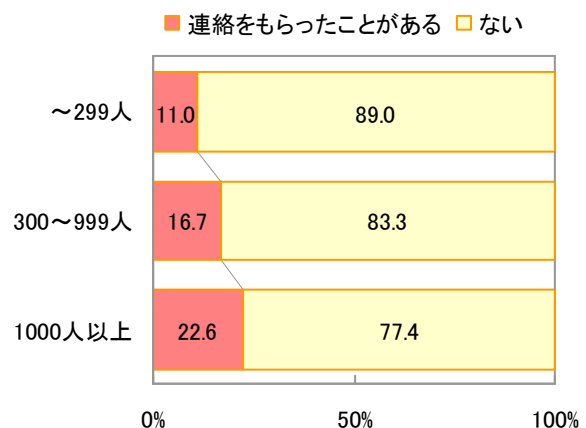
[1] 学生の親から連絡を受けた経験／企業調査

学生の親から直接連絡をもらったことがある企業は15.9%にのぼる。企業規模が大きくなるにつれて“口出し率”は上がり、従業員1000人以上の大手では22.6%と2割を超える。応募者が多い分、親が登場する機会も多いようだ。

学生の親からの連絡

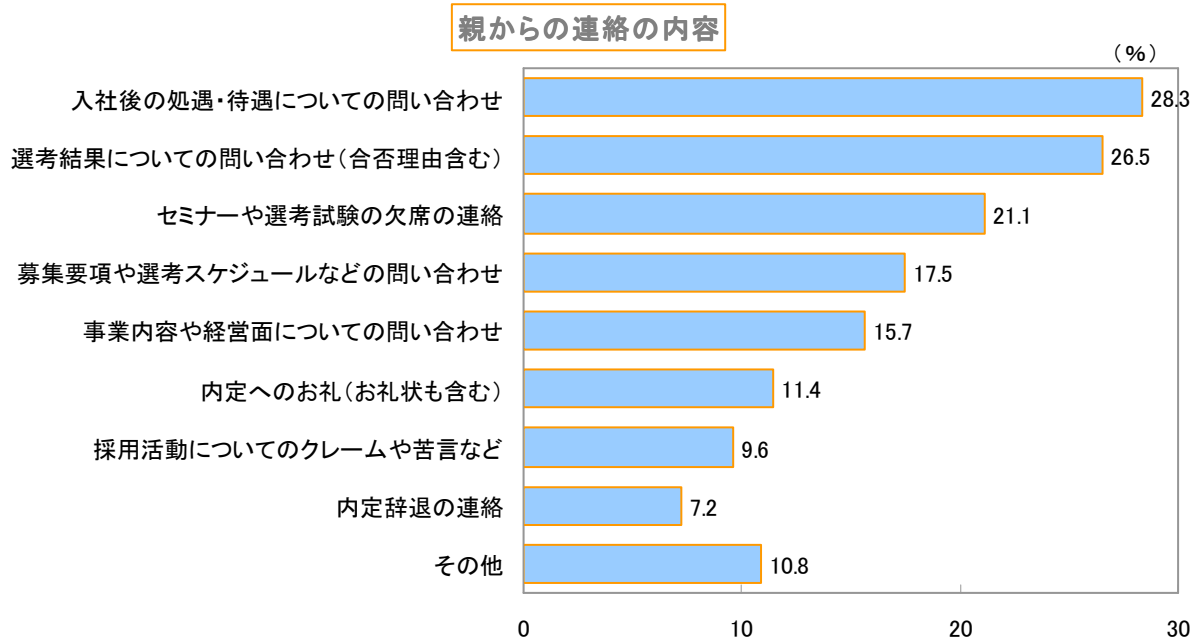


＜従業員規模別＞



[2] 親からの連絡内容／企業調査

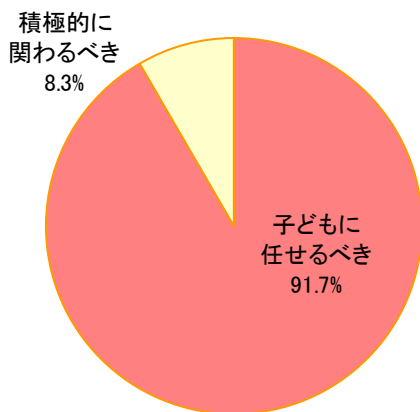
親からの連絡を受けた経験のある企業に対し、どのような趣旨の連絡だったかを複数回答で尋ねた。内容は分散していて多岐にわたるが、多いのは「入社後の処遇・待遇についての問い合わせ」28.3%、「選考結果についての問い合わせ」26.5%、「セミナーや選考試験の欠席の連絡」21.1%の順。いずれも学生本人に直接連絡してもらいたい項目ばかりではないだろうか。



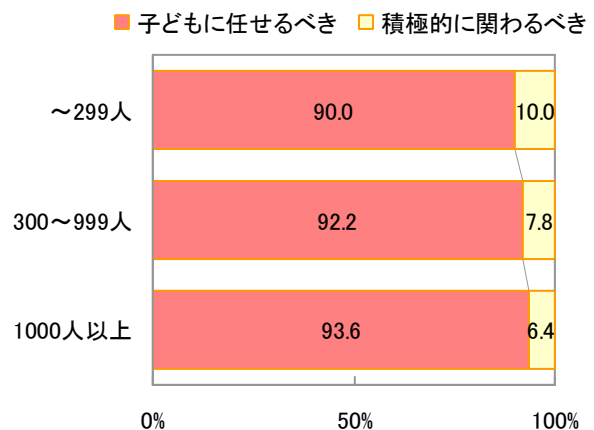
[3] 子どもの就職に対する親のスタンスへの意見／企業調査

就職への親の関わり方について、「子どもに任せるべき」「積極的に関わるべき」の2つのうち、考えに近いほうを選んでもらった。「子どもに任せるべき」が91.7%と9割を超え、「積極的に関わるべき」は8.3%と、かなり少数派となった。企業規模による大きな差は見られず、いずれも「積極的に…」は1割以下にとどまった。

子どもの就職に対する親のスタンス



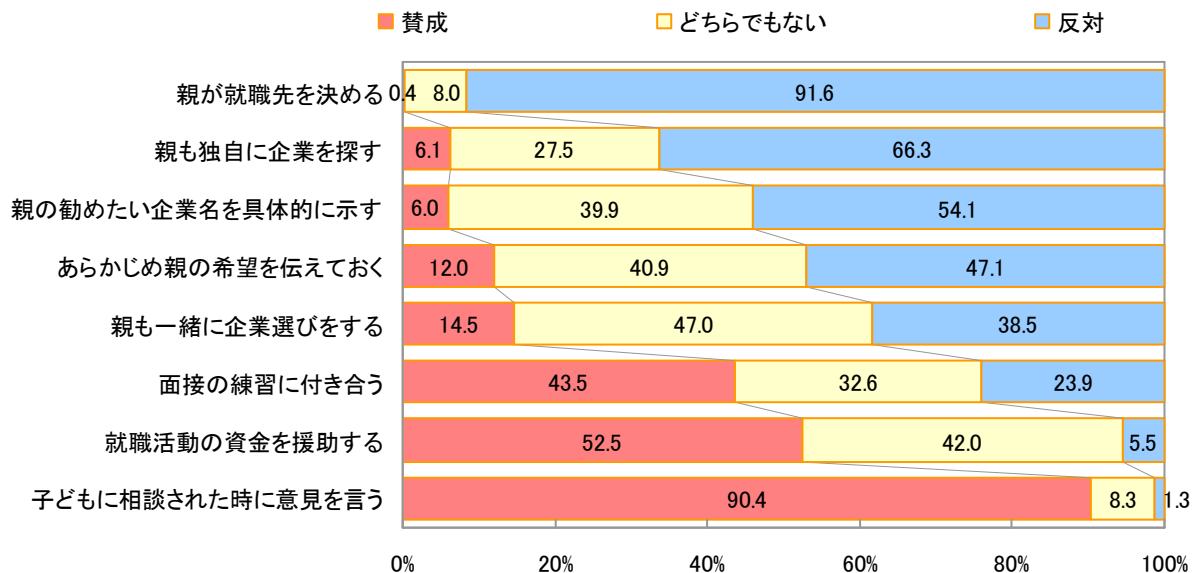
<従業員規模別>



[4] 子どもの就職活動への関わり方について／企業調査

子どもの就職活動への関わり方については、アドバイスや活動資金援助といったサポートには賛成の声が多いが、企業探しや企業選び、意思決定は学生本人に任せるべき、との意見が大勢を占める。寄せられたコメントからもうかがえるが、企業との接点に親が登場するのは、ほとんどの場合マイナスであると言える。

子どもの就職活動への関わり方についての考え



■親子就活についての事例や意見

- ある大学の企業セミナーに参加した際、観覧席から見学する親の姿があった。就職活動まで親が同行するような学生はどうかと思う。 <自動車・輸送用機器>
- 親御さんから今後のセミナー日程や採用人数を確認する電話を受けたことがあり、本人から電話させるよう伝えたことがあった。 <商社（専門）>
- 子どもの就職に親が出てきてしまうと、採用してからもあれこれ口出ししてきそうである。（そもそもこのようなケースの場合、採用に至らないレベルの学生が多いが…） <サービス業>
- どんなに優秀に見える学生でも、親がしゃしゃり出た時点でアウト。 <自動車・輸送用機器>
- 最終的にその会社で仕事をするのは学生個人ですから、自分の入りたい会社は自分で決めるのが当然です。もちろん、子どもにアドバイスするのは賛成です。 <建設・住宅・不動産>
- 行き過ぎは必要ないが、後になってから「親に地元になさいと言われた」「親が反対する」ということを言い出すので、事前に相談することは必要だと思う。 <フードサービス>
- 「親子就活」に100%反対ではない。今後の進路の決め方や悩みに関して「親としての経験」から道筋を示してあげることはできるのでは、と考えている。ただ、本来自分ですべきこと（疑問点を企業の担当者に問い合わせる等）は親が出るべきではない。あくまでも本人が自ら決めることができるようなフォローに徹すべき。 <商社（専門）>
- 親による過剰な干渉は、入社後においてモンスターペアレント問題を抱えることになりかねませんので、親の影がチラついた段階で全て落としています。 <水産・食品>
- 「親」というより社会の先輩として助言していただきたい。 <銀行>

[5] 就職活動についての家族との会話／学生調査

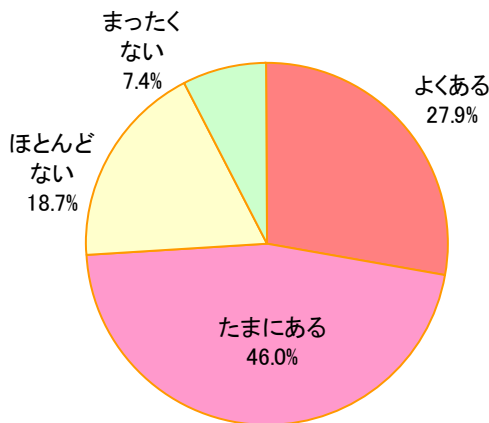
ここからは、学生モニター調査データを見て行こう。

就職活動が盛んな大学3年生の3月時点で、家族との関わりについて尋ねたところ、就職活動や進路について家族と話すことが「よくある」のは27.9%と3割弱。「たまにある」46.0%と合わせると73.9%となり、4人に3人が家族と就職活動について何らかの会話をしていることが分かった。

学生側から自身の就活の話題を切り出すパターンが多く(59.3%)、親が干渉しているというよりは、むしろ学生側が報告や相談をしているケースのほうが多いことが推測できる。

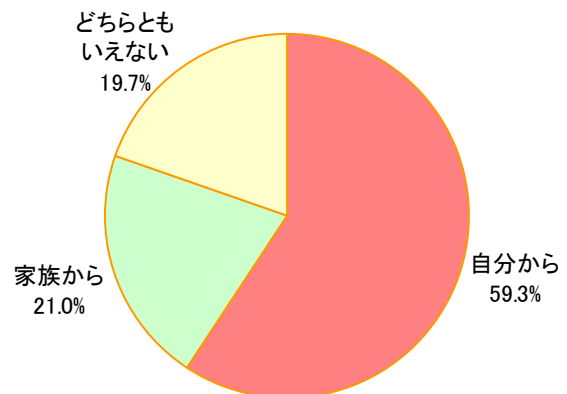
男女別に見ると、男子学生よりも女子学生で、家族との接点が多い様子がうかがえる。

就職活動についての家族との会話



	男子	女子
よくある	24.6%	33.0%
たまにある	46.3%	45.6%
ほとんどない	20.4%	16.0%
まったくない	8.7%	5.4%

就職活動や進路の話を切り出す側

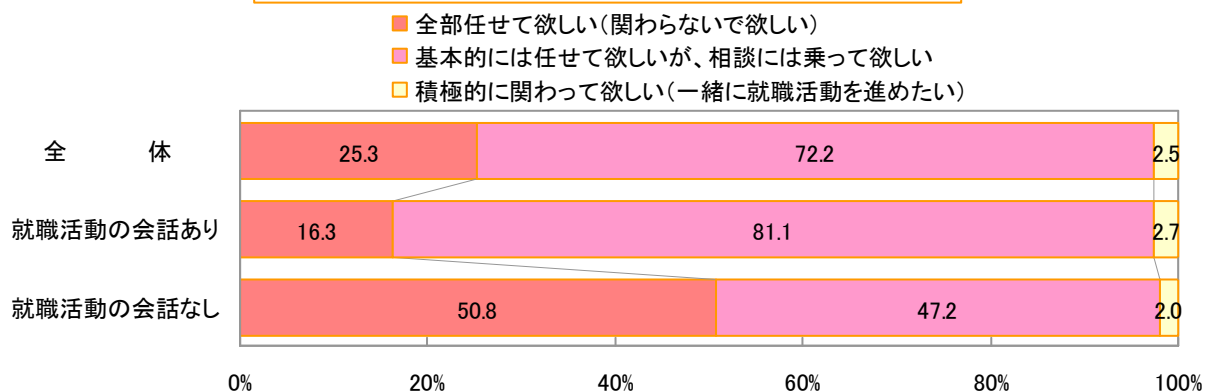


	男子	女子
自分から	56.9%	62.6%
家族から	23.0%	18.2%
どちらともいえない	20.1%	19.2%

[6] 学生が希望する家族の関与度合／学生調査

就職活動について家族にどう関わって欲しいかとの問いには、72.2%が「基本的に任せて欲しいが、相談には乗って欲しい」と回答した。これを先の「就職活動の会話あり」グループに限ると81.1%と8割を超えるのに対し、「就職活動の会話なし」グループでは47.2%と半数を割る。「就職活動の会話なし」グループでは、「全部任せて欲しい(関わらないで欲しい)」が50.8%と過半数を占める。関わって欲しくないから話題に出さないとの姿勢が読み取れる。

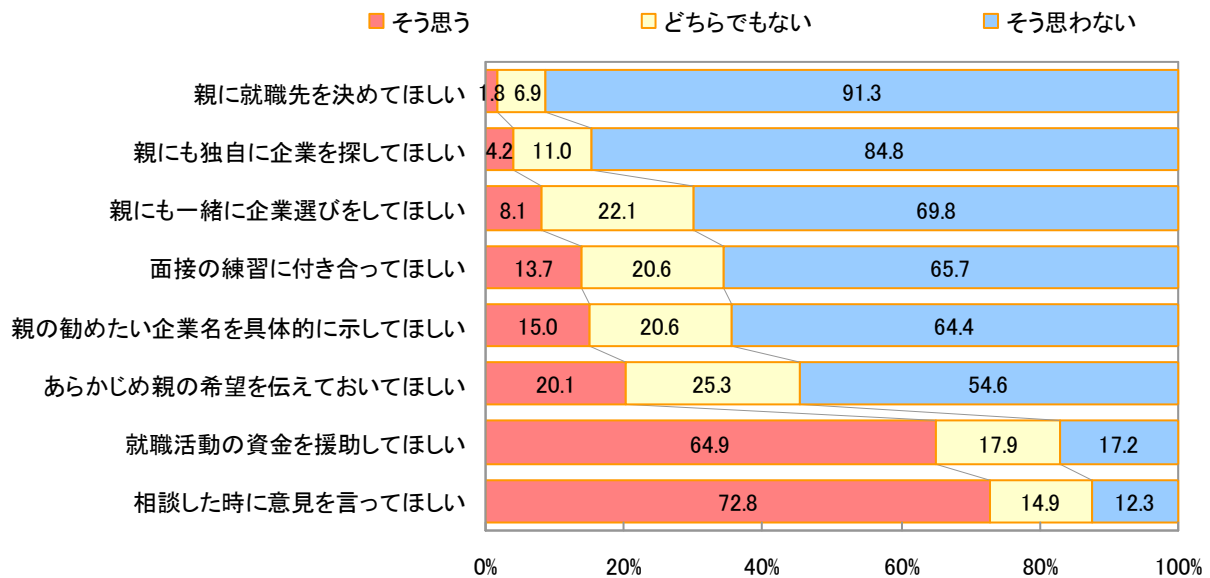
就職活動や進路について希望する家族の関与度合



【7】親の関わり方への希望／学生調査

学生は、就職活動のどのシーンで親に関わってほしいと思っているのか——。企業への調査と同じ項目で気持ちを尋ねた。「相談した時に意見を言ってほしい」「就職活動の資金を援助してほしい」で「そう思う」との回答が突出しており、この2項目は学生もかなり親を頼っていることがわかる。他の項目は「そう思う」の割合は2割未満にとどまった。親の過干渉は避けたいが、資金援助や、必要な時の相談相手としての期待は高いことが読み取れる。

就職に対する親の関わり方への希望



このデータを、3ページで紹介した企業側への調査と比較してみた（企業調査では「賛成」との回答割合を、学生調査では「そう思う（＝そうしてほしい）」と回答した割合を表示）。両者の考え方の差が大きいのは「面接の練習に付き合う」で、企業43.5%に対し、学生は13.7%と3倍もの差がついている。企業側としては、親には社会の大先輩という立場から、社会人としての心構えや、ビジネスのしくみなどを子どもに知らせる機会を設け、学生に実際の面接選考の場でそれを発揮してもらいたいと思っているのかもしれない。

就職活動への親の関与について（企業／学生）

